

鎌田桂輔著「英語教育 - マニラ - 」

ジェットロセンサー 2011年1月号 日本貿易振興機構 2011年1月15日発行を読む

英語教育 - マニラ -

1. フィリピンは英語学習の隠れた先進地。実は世界有数の英語使用国で普及率も高い。本場の発音が低コストで学べるのだ。
2. フィリピンは、英語学習ビジネス展開地として注目株だ。国語のフィリピン語に加え英語を公用語とする同国では、学校教育は小学校から英語で行われる。現地主要紙も英語、政府発表なども英語で読むことが可能だ。書店に並ぶ書籍の9割が英語、多くのアメリカ映画は字幕なしにそのまま上映される。フィリピン語を理解せずとも、通常のビジネス、日常生活は英語で賄えると言って過言ではない。フィリピンは世界有数の「英語の国」なのだ。その普及率はアジアでトップクラスだ。
3. さて、読み書き中心の受験英語にとどまらない「コミュニケーションできる英語」の重要性が指摘されている日本で、効果的な学習法として真っ先に思い浮かぶのは「留学」だろう。実は早くから留学先としてフィリピンに目を付けていたのが韓国の業界。韓国も日本と同様に英語教育が盛んな国だ。だが1997年のアジア通貨危機の影響でウォンが下落、欧米への留学が以前と比べ困難になった。そこで比較的成本を抑えられるフィリピンが英語学習の理想的な留学先として留学あっせん業者の注目を集めることになった。同じアジアの一国ということで、留学する韓国大学生の心理的障壁も低いようだ。現在、マニラ首都圏を中心として、セブ州、イロイロ州などに500以上の英語学校があり、その大半が韓国資本で、多くの韓国留学生が学んでいる。
4. ところが、日本人にとってフィリピンはまだ留学先として一般的ではない。治安面の心配が大きいようだ。しかし、一般に危険とされている地域には立ち寄らない、夜間は不必要に出歩くことを避ける、など注意すべきことを注意さえすれば安心して生活できる場所も多い。欧米への留学と比べ、学費や生活面でのコストはぐっと抑えられる。予算に制約のある留学希望者には魅力だろう。治安面の悪印象が軽減されれば、今後はフィリピンへの語学留学がブームを巻き起こすかもしれない。

5 . 留学が無理なら、国内でネイティブ講師の指導を受ける方法もある。とはいえ一對一のきめ細かな指導が売りのマンツーマンレッスンは、その分費用も割高になる。

6 . この問題を解決したのがインターネットだ。スカイプ(ネット回線を通してテレビ電話のような通信ができるサービス)の登場が新しいビジネスの可能性を広げたのだ。スカイプはインターネットに接続できる環境があれば利用でき、しかも通話料がかからない。そしてクローズアップされたのがフィリピンである。スカイプを利用してフィリピン人講師のレッスンを提供する形の英会話スクールを運営する日系企業は、既に 50 社を超える。従来は米国人講師を使ったレッスンを提供していた企業も、フィリピンの人件費の低さに着目し低価格なプログラムを提供し始めた。

P20

[コメント]

英語を身につけない限りグローバルなビジネス人材にはなれない。ジェトロのマニラセンターの鎌田氏は、英語の勉強の地としてのフィリピンに注目している。英語学習の選択肢の一つとして参考になる。

- 2010年11月14日 林 明夫記 -